

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 10 日現在

機関番号：13201

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2013

課題番号：24730649

研究課題名(和文) ペルソナ/シナリオ法による保育者志望学生の描画指導案作成力の向上

研究課題名(英文) The effects of the Persona scenario method on the student's attitudes that endeavor to make child-centered teaching plan for drawing of early childhood.

研究代表者

若山 育代 (Wakayama, Ikuyo)

富山大学・人間発達科学部・准教授

研究者番号：90553115

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円、(間接経費) 390,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、保育専攻学生の「子どもの状況に基づいて一斉保育の描画指導案を作成する態度」に及ぼすペルソナ/シナリオ法の効果を検証した。学生に対してペルソナ/シナリオ法の実施か、もしくは、描画をしている年長児を思い浮かべさせた。その後、学生の指導案をルーブリックにより評価した結果、「子どもたちが興味関心を持っている遊びをイメージできる」と「一人ひとりへのかかわりをきちんと考えることができる」の規準においてペルソナ/シナリオ法を実施した学生の評価得点が高かった。このことから「子どもの状況に基づいて一斉保育の描画指導案を作成する態度」の形成において、ペルソナ/シナリオ法が有効であることがうかがえた。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to examine the effects of the Persona/scenario method on the student's attitudes. This method is being used to help students create increasingly child-centered teaching plans for drawings of early childhood. The persona/scenario method is utilized as the means to develop the user-centered design in the field of interactional design. Evaluation of student attitudes was determined individually. The major finding is that the students using the persona/scenario method made more child-centered drawing plans than the students who simply remembered children. These results suggested that experience of constructing imaginary children or "ideal" teaching subjects using the personality/scenario method allows the creation of new facts and communicates these new discoveries to students. This improves the degree of student's self-reference, which allows a better imaginary subject to be constructed.

研究分野：教育学

科研費の分科・細目：教育学

キーワード：保育専攻学生 描画部分指導案 ペルソナ/シナリオ法 ルーブリック

## 1. 研究開始当初の背景

幼児の描画活動では、幼児一人一人の性格や感性、表現力が多様に発揮される。つまり、クラスに約 30 人の子どもがいれば、30 通りの個性が発揮されるといえるだろう。たとえば、色を楽しむ子、形を丁寧に描く子、保育者が話している最中に描きはじめる子、表現することに抵抗がある子などである。

保育者はクラスの子どものこのような描画表現の個性を一人一人把握した上で、描画の指導計画案を作成しなければならない。具体的には、子ども一人一人の感性や表現力の特徴を理解した上で、どのような子どもに育てほしいかという「ねらい」をもち、ねらいを達成するための工夫を子どもの実態と絡めながら計画するのである。

このような指導計画の作成は、座学中心で幼児とかかわる機会が少ない保育専攻学生（権藤，2007）にとっては難易度の高い作業となる。そのため、多くの養成課程の授業では、たくさんの子どもの事例に触れさせようと、教員はテキストの中に紹介される子どもの事例を学生に提示する。

しかし、このような事例による子ども理解は、対人援助スキルを身に付ける上で適切な方法とはいえないと考えられている。Bransford, Franks, Vye, & Sherwood (1989) が臨床心理学専攻の学生を対象に行った研究では、テキストから患者の症例を読んだ学生は、臨床実習で実際の患者と接した時に、患者の症状を正しく認識することができず、正しい診断を行えなかったという。

この研究は体験を通してではなく、座学を通して対人援助スキルを身に付けるという方法が有する課題を指摘したものである。つまり座学の問題とは、その患者がどのような人物で、どう感じたり行動したりするかを思い浮かべてその個人差を想定したり、自分がその相手に対して責任を負う立場であるということ意識できなかつたりすることであると考えられる。

ところが、このような知見があるものの、保育専攻学生に毎日のように幼児とかかわらせることは不可能である。そのため、どのような個性を持った子どもがいて、その子がどのように感じたり行動したりするかを学生に具体的にイメージさせたり、その子どもを「自分が育てていくのだ」という自己関与感を持たせたりして、大学にいながらして保育の指導計画を立案させることが必要である。

こうした経験を持たせることができる方法として、ペルソナ/シナリオ法がある。ペルソナ/シナリオ法とは、デザイン分野で活用されるユーザ中心のデザイン手法である。

これまで製品デザインの分野では、デザイナーはユーザの目線に立たず、「自分のつくりたいもの」をデザインし製品化する傾向が強かった(Cooper, 1999)。こうした傾向は、

ユーザの満足度を下げることにつながり、結果的に企業にダメージを与えていた。そこでユーザの目線に立ち、ユーザが使いやすい製品をデザインすることが強く求められるようになってきたのである。

そうした背景の中で生まれたのが、ペルソナ/シナリオ法である。この手法を用いたデザイナーは仮想ユーザを作りだし、その仮想ユーザの姿をイメージしながら製品をデザインする。ここでいう仮想ユーザとは、単にどこか誰かの顔写真に仮名をつけた程度のものではなく、企業が収集した質的、量的データに基づき、名前、年齢、性別、趣味、性格、家族構成に至るまで詳細に設定したものである。デザイナーは、この「ペルソナ」を、まるで本当に実在する人物かのように感じられるよう具体的にリアルに作り上げていく。それにより、ユーザ中心の製品デザインを実現していくのである。

このペルソナ/シナリオ法を保育者(士)養成に活用した研究として、若山(2010)がある。この研究では、ペルソナ/シナリオ法を用いた指導が、学生の、子どもの目線に立って指導案を作成する態度、志向及び描画指導力を向上させることを示唆した。具体的には、講義内で学生にペルソナを作成させ、その上で一斉保育の描画指導案を作成させ、その指導案を実践させた。その結果、学生のインタビューから、「ペルソナを考える段階で、こういう子は、こういう時にこんなことを言うよね。などと考えると同時に、どうしてこういう風に言うんだらうね？この時どんな気持ちなんだらう？と考えました。ペルソナ/シナリオ法は、実際に支援したい子どもの立場になって、じっくりと気持ちを考えるきっかけにもなりました。こういった作業を続けることが、子どもの気持ちに寄り添った支援を行うことにつながるのかなと思いました」等のように、子どもの状況に基づいて指導案を作成するようになる様子が伺えた。

しかし、この研究では、学生に「子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導案を作成しようとする態度」が形成されたかどうかを学生へのインタビューによって検討しており、実際の指導案を評価材料としていない。このような手法では、学生個人の主観的な判断に教育の成果が委ねられてしまうという課題がある。そのため、ペルソナ/シナリオ法によって子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導案を作成しようとする態度が形成されたかどうかは実証的に明らかにできていない。また、この研究では、ペルソナ/シナリオ法を実施しない学生を設定していない。そのため、ペルソナ/シナリオ法の効果であるのか、もしくは、授業が進むにつれて自然と身についていくものであるのかが不明である。

## 2. 研究の目的

(1)「子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導演を作成しようとする態度」を評価する指標作り

「子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導演を作成しようとする態度」をもって指導演を作成したかどうかを評価するループリックを作成する。ループリックとは、生徒の学習の実現状況を評価するために活用する得点化のための指針のことである（高浦・松尾・山森，2006）。このループリックを活用することによって、より客観的に「子どもの目線に立って描画指導演を作成する態度」を学生が形成したかどうかを指導演から評価することができる。そこで、本研究では、ループリックを作成し、ペルソナ/シナリオ法の効果を客観的に評価する。

### (2)ペルソナ/シナリオ法の効果検証

ペルソナ/シナリオ法を実施する学生と実施しない学生を設定し、子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導演を作成しようとする態度が学生に形成されたかどうかをより客観的に検証する必要がある。そこで、本研究では、ペルソナ/シナリオ法を実施する学生と実施しない学生を設定し、「子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導演を作成しようとする態度」を学生が身に付けたかどうかを、ループリックを用いて検証する。

## 3. 研究の方法

### (1)ループリックの作成

Arter&McTighe（2000）の手順に基づきループリックを作成した。具体的には、本研究に協力した15人の学生に、授業時間外に部分指導演を作成させ、作成した指導演についてインタビューを行った。そのインタビューとパフォーマンスとしての部分指導演を用いて、「幼児の姿を土台にして、組織的かつ論理的に実践を作り上げているかどうか」を評価するための、【すばらしい】、【良いがやや修正を要する】、【不十分】の3尺度を設定した。次に、3つの尺度のうち、どの尺度に分類されるかを判断するための評価基準文を作成した。そして、平成24年度と25年度の「保育の指導演」で学生が作成した部分指導演を合計約100枚回収し、それらを筆者が評価基準文を用いて先ほどの3グループに分類するとともに、評価基準の文章を推敲した。

なお、このような手続きを経て開発したループリックの評価基準文の一つ一つは、部分指導演のそれぞれの項目ごとに整理して、どの項目についての学びが十分であったり不十分であったりするかをわかりやすくした。それぞれの項目とは、すなわち、<子どもの姿>、<ねらい>、<活動内容> <予想される子どもの動き・言葉がけ・配慮>である。

加えて、部分指導演の項目ではないが、これら4項目間のつながりと、文章表現の吟味に関する評価基準文も整理して示した。

### (2)ペルソナ/シナリオ法の効果検証

#### 実施方法

協力学生16名を、8名ずつの2グループに分けた。一方のグループにはペルソナ/シナリオ法を実施し、もう一方のグループには実施しなかった。両群とも、4人ずつの小グループで実施した。以下、ペルソナ/シナリオ法を実施したグループを介入群と呼び、実施しなかったグループを統制群と呼ぶ。次に、各群への教示について述べる。

#### 介入群への教示

描画の一斉保育の部分指導演を作成する前に、ペルソナシートを作成させた。学生に3枚のペルソナシートを提示し、次のように教示した。「今から、みなさんに架空の年長児を作っていただきます。自分が作りだした架空の年長児が、お絵描きの時にどんな様子で絵を描いているのかということや、またその子に対して自分がしたと想定するかわりの中で適切なものはどんなものかということ、そして、対象児の描画表現についてこれからどんなことを大切にしていきたいか、ということについて、このシートに沿って書いていただきます。最後に、その年長児の家族構成と家庭での様子を書き、名前と似顔絵も書いてください。それらをすべてこのシートの中に書き込んでください。このシートは、3人分作成していただきます。その後で、こちらの部分指導演を作成してください。この部分指導演には、「あなたはこの3人のクラス担任です。この3人のために、一斉保育の描画指導演を書いてください」と書いてありますので、そのつもりで指導演を作成してください。」なお、ここで3名のペルソナを作成させた理由は、幼児の表現スタイルが3パターンに分類可能（槇，2004）であることを参考にした。

#### 統制群への教示

部分指導演を作成する前に、「今から、描画の指導演を書いていただきます。これまでにあなたが見たこと、聞いたこと、出会ったことのある、お絵かきをしている子どもを3人思い浮かべてください。」と伝えた。その後、介入群と同様に、「その後で、こちらの部分指導演を作成してください。この部分指導演には、「あなたはこの3人のクラス担任です。この3人のために、一斉保育の描画指導演を書いてください」と書いてありますので、そのつもりで指導演を作成してください」と教示した。

#### 分析方法と倫理的配慮

ループリックを用いて、学生が作成した16枚の部分指導演を評価した。評価は、筆者と研究の趣旨を明確に知らされない幼児教育関係者の2名で行った。すべての評価基準の選択率の一致は90%であり、不一致の点については協議の上、決定した。こうして得られた各評価基準の該当者数の比率データを、IBM SPSS Statistics 21.0を使用した $\chi^2$ 検定によって分析した。

倫理的配慮について、「大学生の指導案作成力を向上させるための方法論を明らかにする」という研究の趣旨を協力学生に説明し、個人情報保護されること、今回の結果が成績に何ら影響を及ぼすことはないことを説明した。その上で、同意書へのサインを得た。

#### 4. 研究成果

(1)「子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導案を作成しようとする態度」を評価する指標作りについて

作成したループリックを平成 25 年度「保育の指導法」講義内で学生(47人)に配布し、自己評価させた。具体的には、授業終了 15 分ほど前に学生にループリックの用紙を配布し、自己評価の方法を説明した。そして、記入したループリック用紙を来週までに提出するように伝えた。加えて、なぜ自分の部分指導案に対してそのような評価をしたのか、その理由を自由記述欄に書かせるようにした。

ループリックを用いて自身の部分指導案を評価させたところ、「3すばらしい」に分類されると自己評価した学生は、4.3%であった。「2良いがやや修正を要する」に分類されたとした学生は、93.6%であった。「1不十分」に分類されたとした学生は、2.1%であった。

この結果を受け、「2良いがやや修正を要する」に分類されたとした学生が、どの評価指標について自分ができていないと評価しているかを分析した結果、「保育者が言葉がけするなどして直接的に援助しければ【ねらい】が達成されない内容になっている」が46%と多かった。

以上から、学生は、そのほとんどが自分の部分指導案を「修正を要する」ものとしてとらえており、特に修正すべき点として、子どもの自発性や主体性を発揮させる活動を通してではなく、自分が直接的に言葉がけをするなどしてねらいを達成しようとする点に課題を感じていることがうかがえた。

(2)ペルソナ/シナリオ法の効果検証について

ペルソナ/シナリオ法を受けた介入群の学生は、受けていない統制群の学生と比べて、ループリックの「子どもたちが興味関心を持っている遊びをイメージできる」と「一人ひとりへのかかわりをきちんと考えることができる」の規準で高い評価得点を得る傾向が明らかになった。前者の評価規準は、子どもが今現在、何に興味を持ち、何をしようとしているのかなどの子どもの生活する姿を把握しているかどうかについての規準である。この規準について高い評価を得るということは、子どもの状況をきちんととらえようとしていることの現れであり、子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導案を作成することにおいて重要なものの一つである。

また、後者の「一人ひとりへのかかわりを

きちんと考えることができる」という評価規準は、子どもの状況に基づいて指導計画を立て、それを実施するための詳細な配慮ができていようかを評価する規準である。この規準について高い評価を得るということは、子どもたち一人一人の目線に立ってかかわりを考えようとする思いを持って一斉保育の部分指導案を作成しようとしている姿の現れであると考えられる。そのため、この規準もまた、子どもの状況に基づいて一斉保育の部分指導案を作成することにおいて重要なものの一つである。

これらの結果から、座学が中心で子どもとかわる機会の少ない学生がペルソナ/シナリオ法を体験することで、座学の中でも子ども一人ひとりの個性や多様性に配慮する思考を働かせる体験を持つことができ、一人の保育者として子どもたちの姿をとらえる経験を得ることができたといえるだろう。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

若山育代. 保育専攻学生の「子どもの状況に基づいて一斉保育の描画指導案を作成する態度」に及ぼすペルソナ/シナリオ法の効果 - ループリック評価を採用して -. 保育士養成研究. 査読有. 31 巻. 2014 年. 47-56.

〔学会発表〕(計6件)

Ikuyo Wakayama. The relationship between college students' implicit theory of teaching and their verbal support in drawing lesson. European Early Childhood Education Research Association, 22th conference. 2012 年 08 月 29 日 ~ 2012 年 09 月 01 日. Instituto Superior de Engenharia do Porto.

若山育代. 保育者志望学生の描画部分指導案作成力評価ループリックの開発. 日本教育心理学会第 54 回総会. 2012 年 11 月 23 日 ~ 2012 年 11 月 25 日. 琉球大学.

若山育代. 保育者志望学生の描画指導案作成力の評価ループリック開発 - 学生の暗黙知に着目して -. 日本発達心理学会第 24 回大会. 2013 年 03 月 15 日 ~ 2013 年 03 月 17 日. 明治学院大学白金キャンパス.

Ikuyo Wakayama. The Differences in "Experience Drawing" Lesson Plans Produced by Kindergarten Teacher and College Student in Early Childhood Education Course. European Early Childhood Education Research Association, 23rd conference. 2013 年 8 月 28 日 ~ 2013 年 8 月 31 日. Tallinn University.

若山育代. 保育の部分指導案作成力を評価するためのループリック開発と実践について. 平成 25 年度全国保育士養成セミナー. 2013 年 9 月 4 日 ~ 2013 年 9 月 5 日. 香川

県・サンポートホール高松，かがわ国際会議場。

若山育代。保育者志望学生と保育者が一斉保育の描画指導案を作成する際に働かせる思考の相違-保育専攻学生の描画指導案にみられる「自己中心性」-.日本発達心理学会第25回大会.2014年03月21日～2014年03月23日.京都大学.

## 6．研究組織

研究代表者

若山育代 (WAKAYAMA, Ikuyo)

富山大学・人間発達科学部・准教授

研究者番号：90553115